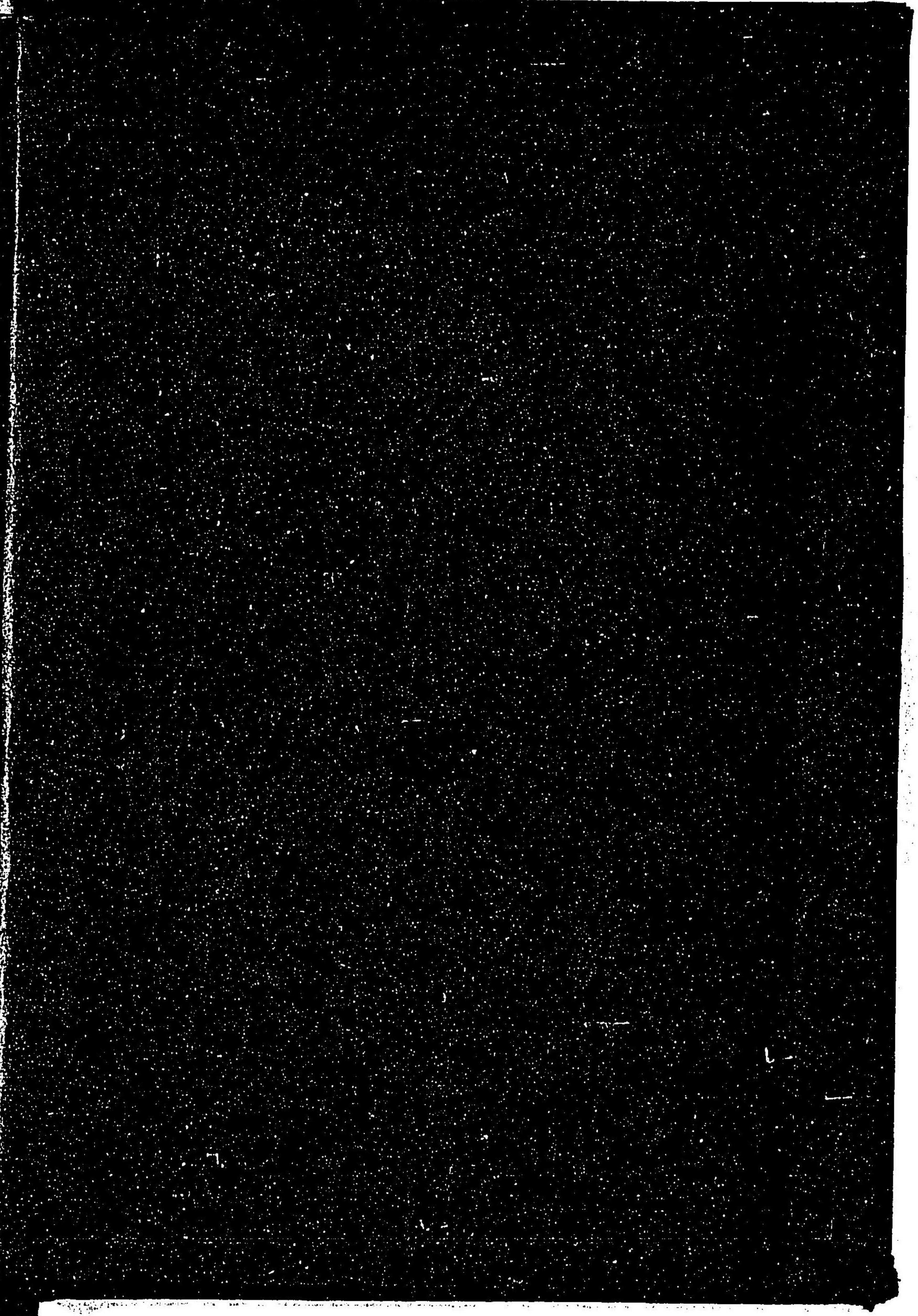


82  
726



浦富名勝案内





82-1726



浦富顯勝會編纂

浦富  
名勝  
古跡  
案内

明治  
44. 8. 7  
内交



自序

世浦富ノ景勝ヲ稱スルモノ概ネ裏日本ノ松島或ハ舞子ト言ハザルナ  
シサレド吾人ハ言ハントス浦富ハ天下ノ大觀ニシテ其勝遙ニ松島舞子  
ノ上ニ出ヅト見ヨ瀾大ノ勝景ヲ以テシテ巨靈ノ鑿斧ニ成レル怪岩奇礁  
ヲ以テス豪宕卓拔ノ概ト鬼趣神韻ノ妙ト翠松滴リ白沙連リ奔浪巖ヲ打  
チ老松碧空ヲ凌ギ天人ノ羽衣ヲ舞スガ如ク虬龍ノ雲ニ跳ルガ如キト其  
風致復何者カ比喩ヲ容ンヤ唯交通不便ノ時代詩人墨客ノ吟唱ニ上ルコ  
ト少ク爲ニ名ヲ前者ニ譲リシノミ今ヤ鐵路ハ開通シ港頭又汽船ノ出入  
ヲ見ル是ヨリ紳士淑女ノ觀賞ニ養痾ニ來遊スルモノ極メテ多カラム是  
等人士此ノ記ニヨリテ之ヲ實地ニ探ラバ吾人ガ言ノ果シテ虚ナラザル  
ヲ知ラム唯憾ムラクハ拙文全豹ヲ寫シ神韻ヲ縹緲タラシムル能ハザル  
ヲソハ偏ニ實地ノ觀賞ニ俟ツノミ

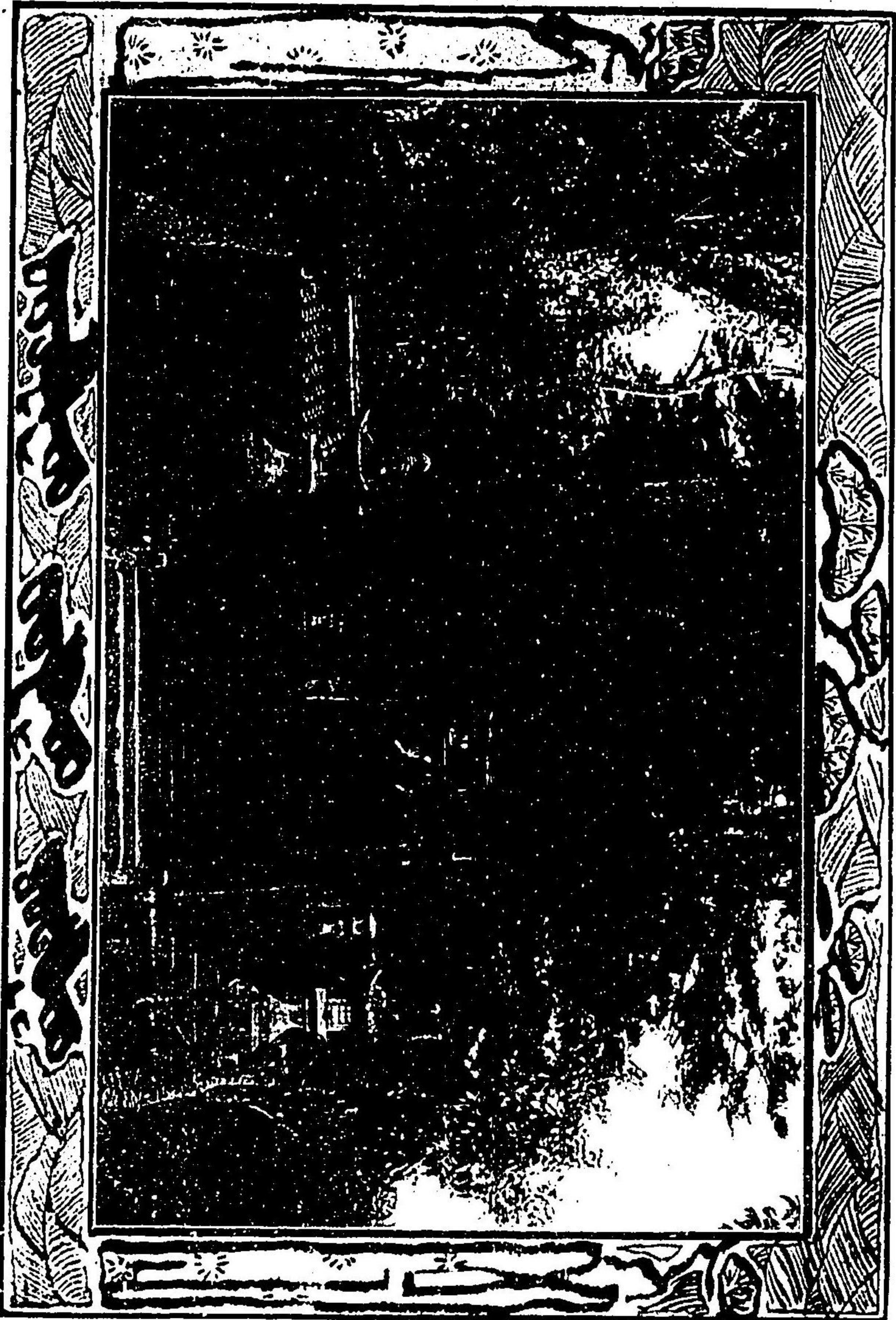


自序

本書編纂ニ關シ木山竹治氏ノ勞多キヲ謝ス

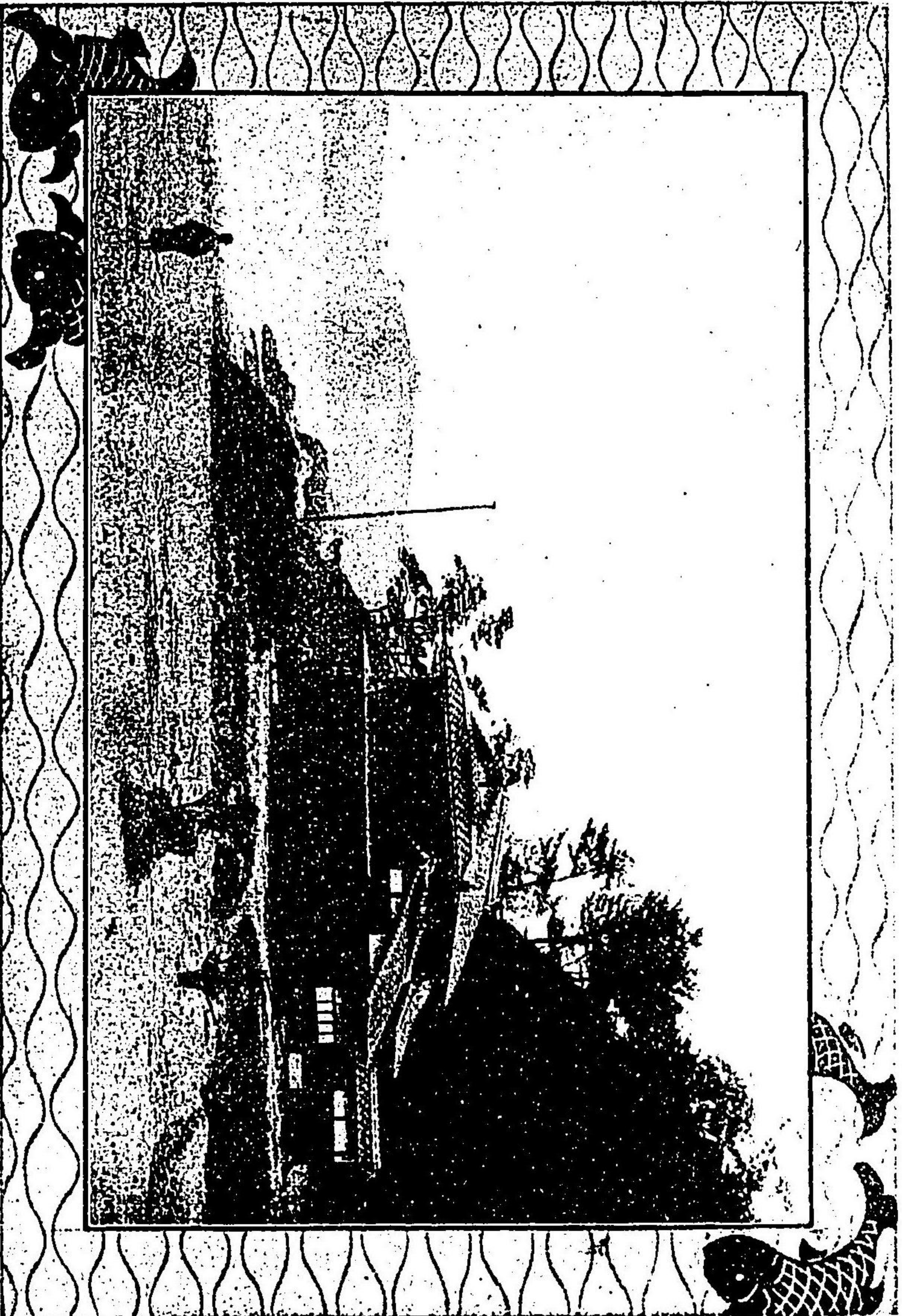
明治四十四年六月

浦宮顯勝會 識

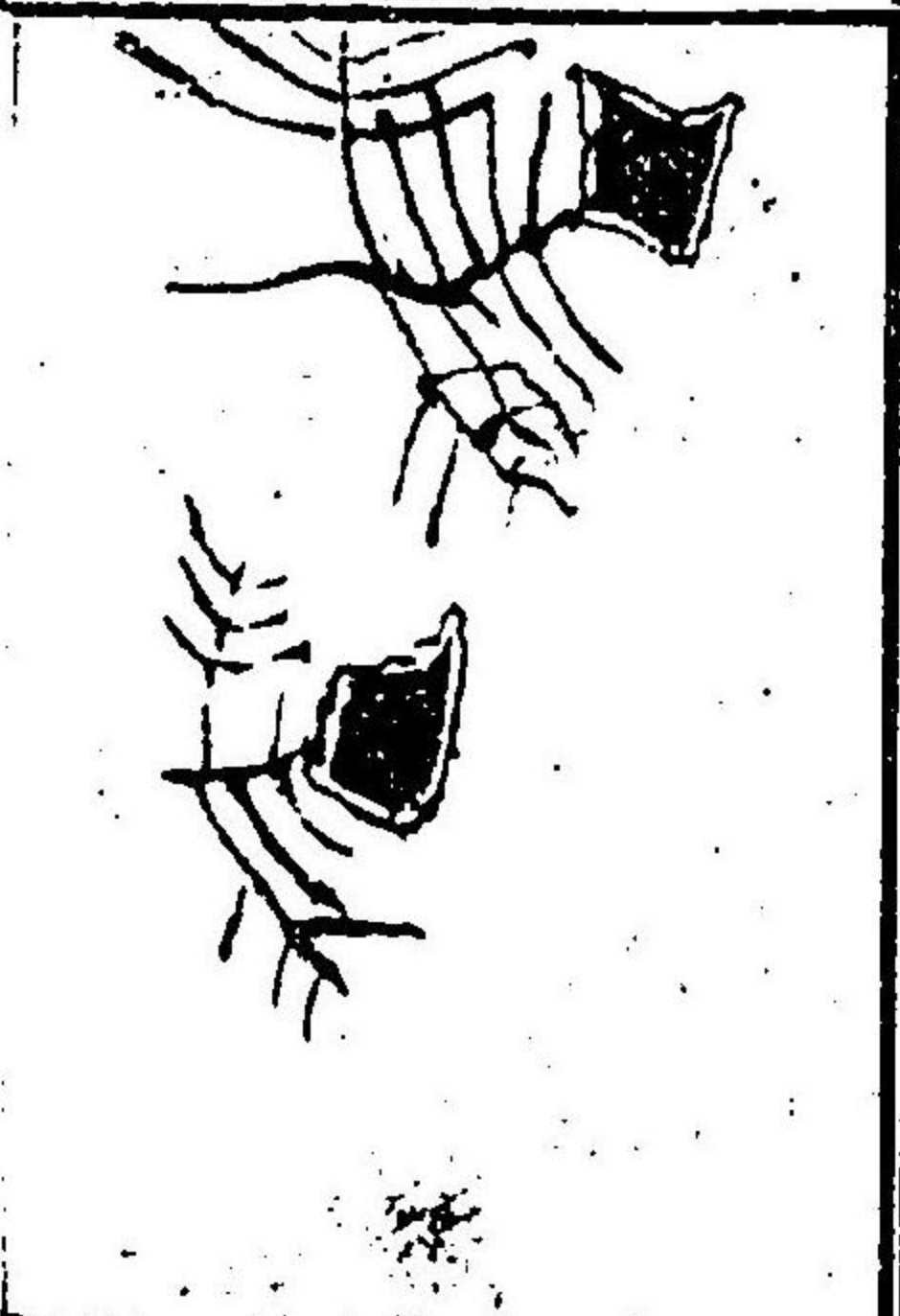


社 神 砂 荒





小栗津松瀨庵



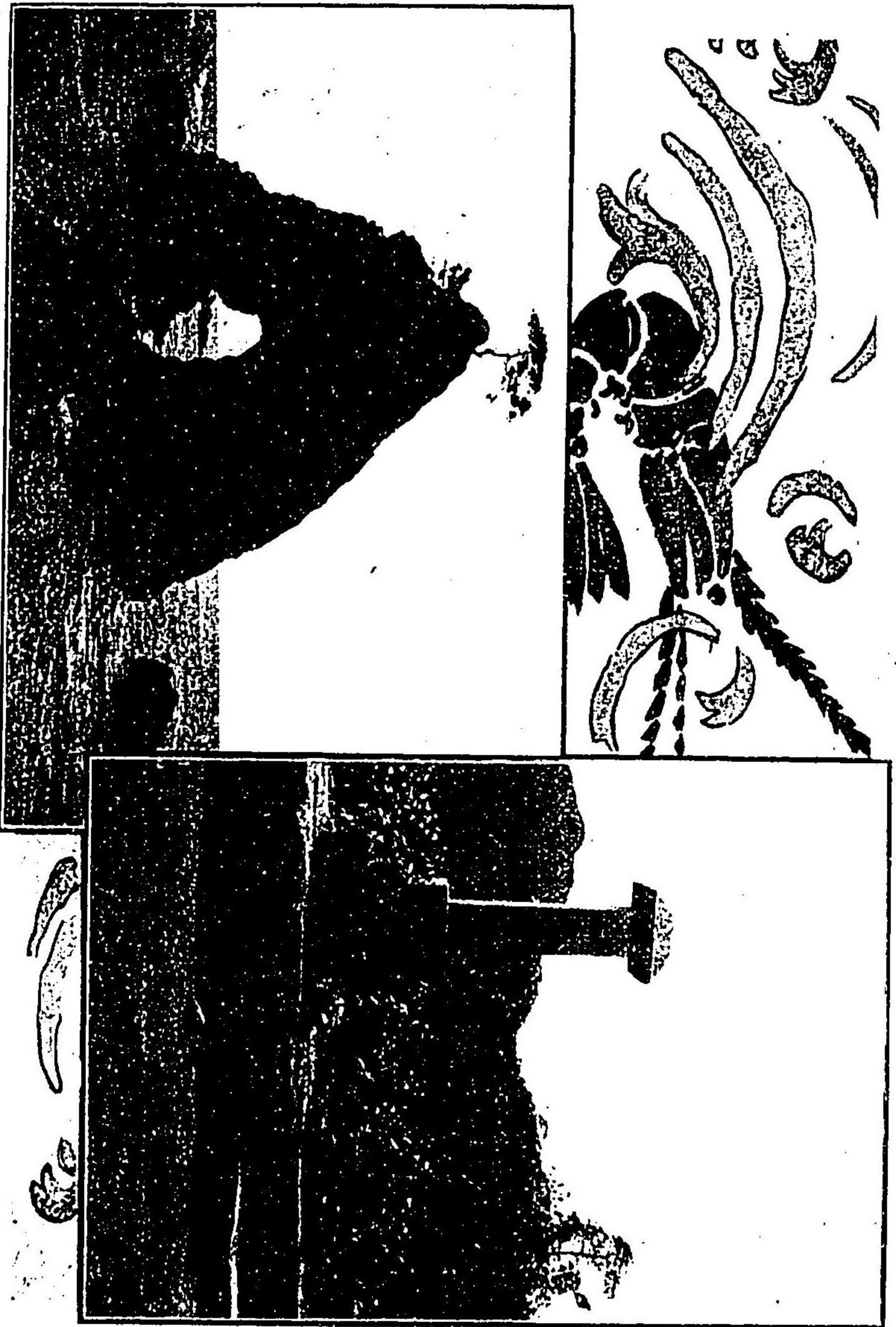
四後浦門島

浦富港頭





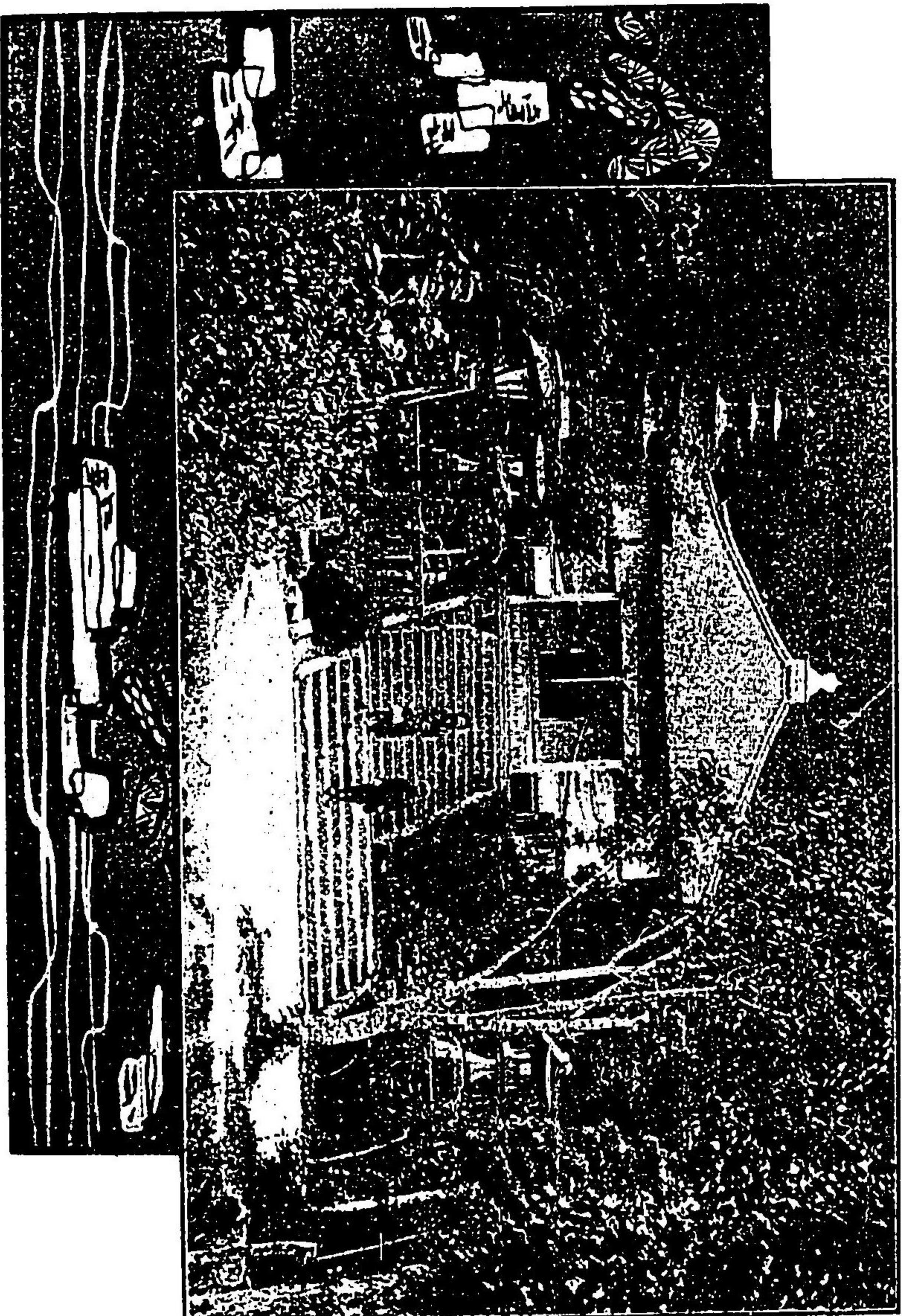
島種菜後田



島松貫千浦代網

墓生護師禪幼通





浦 宮 古 祥 院



羽 尾 浦 萬 燈 島





浦宮熊野神社



陸上西脇海岸



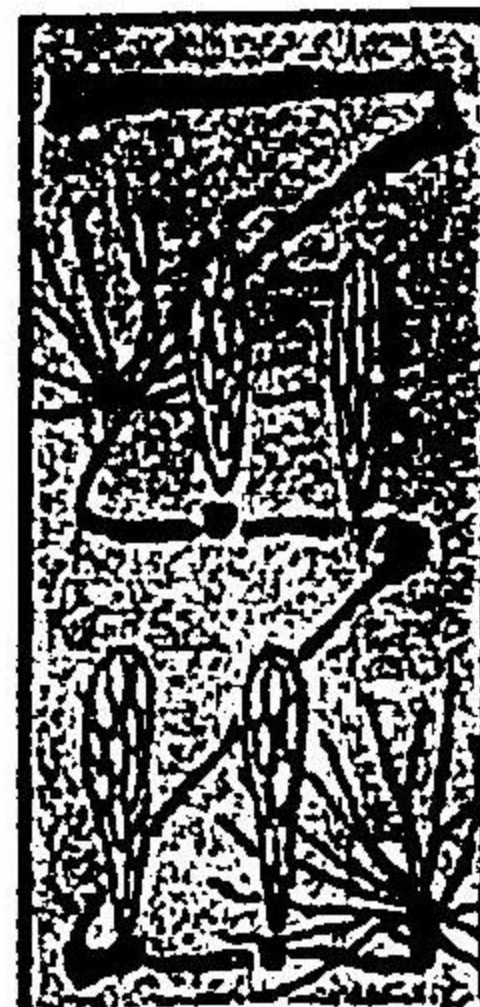


內外書籍  
和洋文具  
理科器械  
運動器具  
樂器

鳥取市東町縣廳前

平木書店

振替貯金口座東京二三〇番  
電話二百四十三番



陸上湖東岸石門



**温泉海水浴客** の最も注意を要するは不定の癩具を旅館より供給し有毒性の微菌を傳染すると又寢冷の爲め下痢を催し折角の療養も水泡に歸する憂あり此の二個の危険と蚤の來襲を防がんと欲せば**マカラズヤ**に於て毛布を索めらるべく切に御勧め申上候

鳥取市智頭街道筋

**マカラツヤ毛織物店**

特電話三三七番

**營業品目**

毛	洋	萬	英	机	革座蒲團
布	服	套	ネール	掛	羽根蒲團
膝	ト	厚	フランネール	窓	
掛	ン	司	敷	掛	
肩	ビ	半	物	椅子	
掛	被	袴	卓	子張	
モ	布	下	子	洋	
へ	外	セ	掛	傘	
ル	套	ル			



御旅館

鳥取縣廳前  
梅本旅館

電話三六二番

岩前  
美

運送業

汽車汽船連絡貨物取扱所  
神戶海上運送保險株式會社代理店  
火災  
內國通運株式會社取扱店

吉岡商店

振替貯金口座大阪一九〇一番

販賣業

浦宮名産白浪製造販賣  
鯛魚油烏賊製造販賣  
米穀肥料海產物仲買商



化 醫 寫 醫 度  
學 療 真 療 醫  
藥 藥 器 器 量  
品 品 械 械 衝

角

森 田 藥 店

鳥取市元大工町

電話三九番

齒科 治療  
竹內精通堂

鳥取市若櫻町筋

長電話二一一番



海水浴客

汽船乗客


分

間竹

清風館

岩美

浦富



株式會社

第百銀行

鳥取支店

鳥取市智頭街道筋

電話一〇番



山片  
樓潮觀

海水浴旅館

汽船乘客御旅館

汽船連絡御指定旅館

帝國鐵道院御指定旅館

富浦

浦富融通合資會社

電話  
號  
二  
ウ  
又  
ハ  
ユ



鳥取市東町

山添旅館

電話二二二番



御旅館

上但

鳥取市

川端通

三丁目

長電話

一〇二番



御 旅 館

米屋善四郎 號

米

善

電 話 長 距 離

鳥 取 一 二 五 番

浦富名勝古跡案内目次

— 3 —

浦富	浦富	一
海水浴場	浦富	四
宮島	浦富	六
小栗濱	浦富	八
田後坂ノ眺望	浦富	八
田後港頭ノ夜景	浦富	九
菜種島	浦富	二
鴨ヶ磯	浦富	三
観音島	浦富	三
千貫松島	浦富	五
桐山城址	浦富	七
鞠殿氏ノ墓	浦富	八
附松田道之傳	浦富	八



目次

吉祥院境内 (一名浦富公園) ..... 一〇

熊野神社 ..... 一一

道竹城址 ..... 一二

垣屋宗管墓 ..... 一四

通幻禪師誕生墓 ..... 一五

金峰神社 ..... 一九

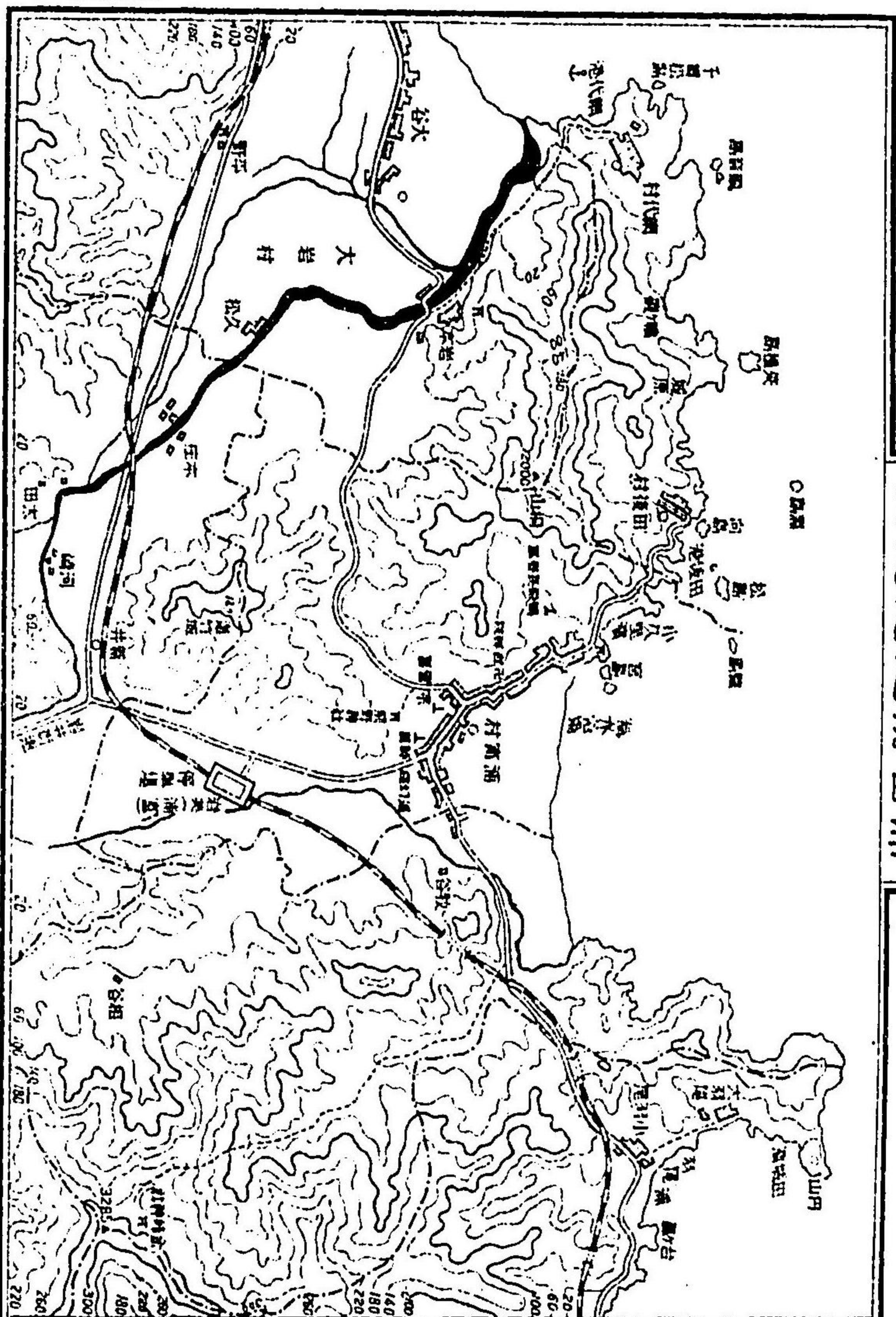
羽尾浦 ..... 二一

岩井温泉 ..... 二四

網代港 ..... 二七

浦富名勝古跡案内目次終

浦富附近之地圖



圖之(圖分)



里程表

— 5 —

○浦富元標ヨリ

金峰神社へ	三十三町
小羽尾村へ	二十三町
大羽尾村へ	三十町
陸上村へ	一里九町
岩美停車場へ	十二町
岩井温泉へ	一里十町
岩常村へ	一里三町
木庄村へ	三十一町
網代村へ	一里三町
田後村へ	十九町
大谷村へ	一里

○海水浴場ヨリ(海上)

松島	七町
茶櫃島	十七町
鳴ヶ磯	二十二町
観音島	二十五町
千貫松島	三十二町

○浦富港ヨリ

諸寄港へ	六、五海里
香住港へ	一八、〇海里
城崎港へ	三一、〇海里
舞鶴港へ	七二、〇海里
網代港へ	二、八海里
境港へ	五三、〇海里

里程表



京	大	神	岡	姫	和	城	香	今	松	米	倉	鳥	驛
都	阪	戸	山	路	田	崎	住	市	江	子	吉	取	名

一	一	一	一	九	五	三	二	一	八	六	三	一	哩
三	四	三	五	八	七	六	〇	〇	七	九	六	一	數
二	八	二	三	七	八	六	〇	三	〇	〇	二	四	分

一	一	一	二	一	九	五	三	一	一	一	六	二	哩
八	九	八	〇	四	五	七	四	八	〇	〇	一	〇	數
四	九	四	五	八	五	七	四	八	〇	〇	一	〇	分

東	名	驛
京	古	名
屋	屋	名

四	二	哩
六	二	數
〇	七	分
九	五	分

汽車賃(三等)

四	二
四	七
五	四

哩數及汽車賃

○岩美驛ヨリ各驛ニ至ル哩程及汽車賃

# 浦富名勝古跡案内

浦富顯勝會編纂

○浦富

浦富ハ鳥取縣ノ東端ニ位シ鳥取ノ東五里ノ地ニアリ曾テ池田侯ノ老臣賴殿氏ノ治スル所ニシテ牧谷村ト軒ヲ聯ネ延長卅町ニ達シ街衢端正縣下有數ノ名邑ニシテ戸數四百人口二千ニ餘リ官衙學校ノ設置セラルルモノ尠カラズ北ハ砂白ク松青キ阜丘ヲ隔テ、渺茫タル日本海ニ臨ミ東方及南方ニハ金峯山キンソウサン扇山サンファンノ翠黛ヲ眺メ西方ニハ桐山ノ高峯兀立シ此ガ支脈ハ海中ニ走リテ無數ノ孤島怪岩踔厲豪宕ノ奇觀ヲ極メ激瀨タル

浦富



— 2 —

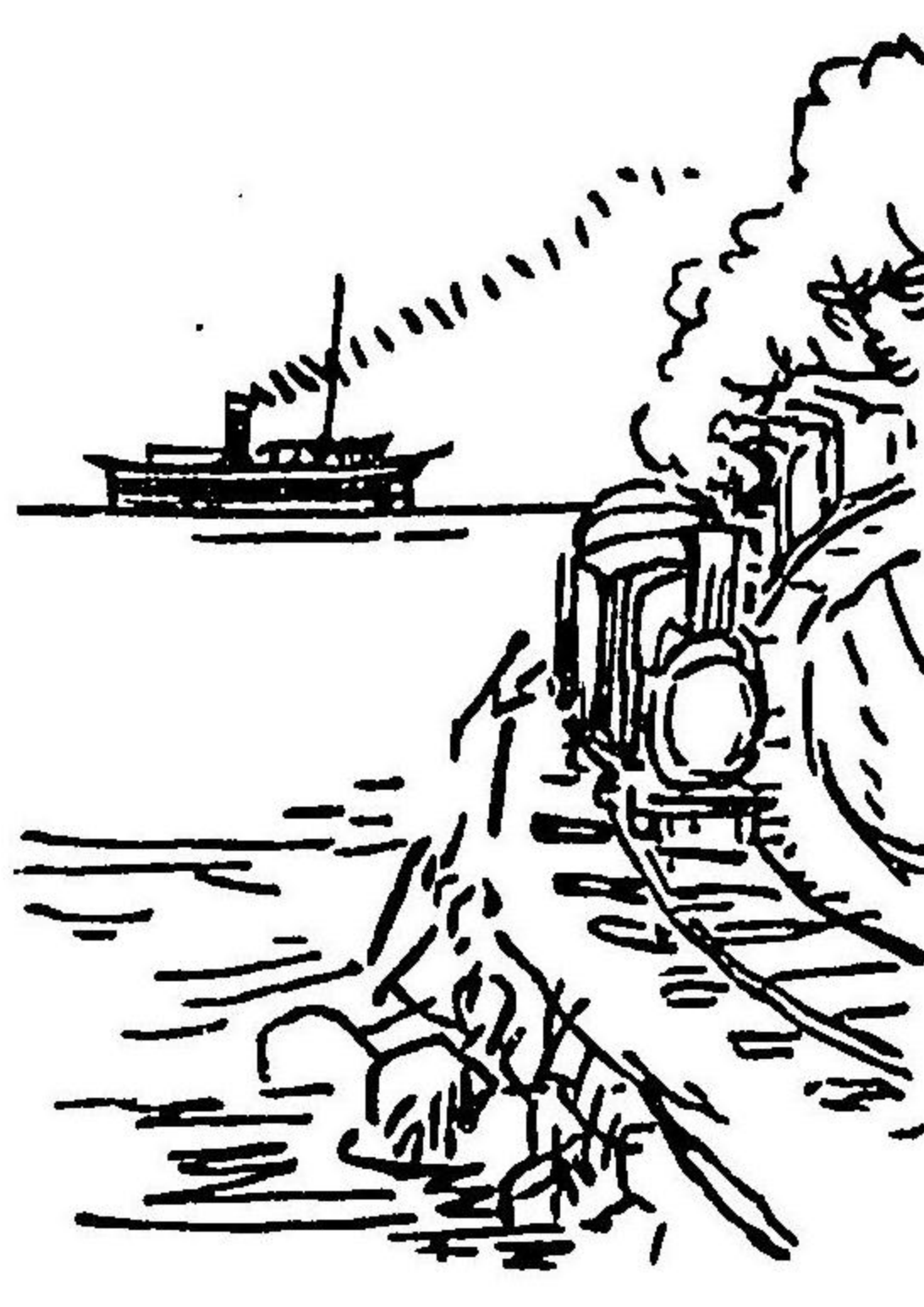
蒼波ト相映シ宛然錦繡ノ如ク天地ノ秀麗此境ニ鍾ル盛夏ハ涼風海ヨリ  
 來リ三伏暑ヲ知ラズ布基ノ島嶼海ヲ圍ミ自ラ一小澳ヲナスヲ以テ遊覽  
 地避暑地且ツハ海水浴場トシテ恰好ノ地タリ彼鎌倉大磯サテハ須磨舞  
 子ノ如キ例ヘバ天女ノ淡粧ヲ凝スルガ如ク温雅優麗ナランモ斷崖空ヲ  
 摩シ巨巖頑靈ヲ爭ヒ碧波怪岩ヲ噬ミ龍蛇走リ白虎躍リ跌宕豪壯ノ大觀  
 ニ至リテハ太平洋岸ニ見ル能ハザル所惜哉交通ノ不便ハ人士ノ知ヲ得  
 ザル久シ千古ノ絶勝空シク風濤ニ晒サレシガ今ヤ交通機關ノ發達ト共  
 ニ天下ニ紹介セラル、ニ至ル獨リ地方人士ノ喜ビノミナランヤ

此地ハ管ニ景勝ノ地タルノミナラズ各種ノ産業發達シ生産物尠カラ  
 ズ南方一帶ノ平野ハ肥沃ニシテ其耕地ハ古ク既ニ整理セラレ米麥ノ産  
 額多ク附近ノ畑地ニハ至ル所桑樹ヲ植エ各戸養蠶ヲ勵ム從テ良好ナル  
 繭ヲ産シ收繭ノ時期ニ至リテハ商買ノ來往雜鬧ヲ極ム又廣谷中島等ノ

— 3 —

製糸場アリテ生糸ヲ産ス近年蔦草ヲ作り疊表ヲ織製シ浦宮表ノ名高シ  
 其ノ海灣ハ海流島嶼等ノ關係ニヨリ魚族ニ富ミ殊ニ蟹鰯鰯鳥賊ノ漁獲  
 多ク鹽藏乾製雜詰ニシテ販賣スルノミナラズ潑刺タル鮮魚ハ一度此地  
 ニ遊ビシモノ賞味忘ル、能ハザル所ナリ

又此地ハ岩美停車場ノ所在地ニシテ陸ニハ鐵道海ニハ汽船ノ利便ア  
 ルヲ以テ貨物ノ集散頗シク旅客ノ來往頻繁ナリ松江米子ヨリ來ルモ五  
 時間又ハ四時間鳥取ヨリハ僅ニ數十分  
 間京阪ヨリスルモ二回ヲ投ズレバ十餘  
 時間ニシテ來リテ此地ノ景勝ヲ擅ニス  
 ルヲ得ベシ



浦宮舟遊二律 西尾豆花村  
 無數奇巖出水畝 怪松橫臥似難支



雨腥風冷蛟龍窟 煙擁濤圍神女祠 漁網多連晴渚曬  
 釣舟忽趁晚潮移 浪滄一曲忘機處 人與海鷗兩不疑  
 短汀曲浦畫難成 一葉扁舟任掉行 當面參差危嶼出  
 摩空突兀險崖傾 巖無寸土松逾綠 水有清風瀾忽生  
 目送落霞孤鷺影 海天渺々暮雲平

○海水浴場

浦富灣ノ一隅ニアリ西方ニハ宮島ノ岬角突出シ向島ハ東北ニ列リテ  
 一小澳ヲナシ茫々タル蒼海ト區劃セルヲ以テ少シモ危險ノ虞ナク波靜  
 ニ砂白ク水清ク深カラズ淺カラズ實ニ恰好ノ海水浴場ナリ老幼男女此  
 鏡ノ如キ清波ニ浴シ魚ヲ追ヒ貝ヲ拾ヒ小舟ヲ操リ游泳ノ技ヲ競フベシ  
 又銷夏ノ最好適地ニアラズヤ清風觀潮等ノ旅館ハ海濱數十歩ノ地ニア

リテ海水浴及汽船乗降客ノ宿泊ニ便ス徐ニ欄干ニヨレバ涼風海上ヨリ  
 來リテ客襟自ラ爽カニ漁船處々蒼波ニ點シ煤烟ヲ噴クノ汽船ハ空ヲ割  
 シテ出デ斜々タル帆船風ヲ孕デ來ル日漸  
 ク沒スレバ漁火ハ星ノ如ク暗中ニ輝キ明  
 月ハ海水ニ碎ケテ金波湧キ銀波散シ欸乃  
 ノ聲或ハ遠ク或ハ近ク其趣言フベカラズ  
 朝景暮光氣象千萬雨奇晴好筆舌ノ及ブ所  
 ニアラズ此景既ニ眼前ニ横ハルヲ以テ酌  
 ムベシ以テ謠フベシ況ヤ日本海ノ鮮魚ヲ  
 割キテ以テ下物トナスベキモノ其種類多  
 キヲヤ



浦富海水浴

山瀬立堂

海水浴場



水清山碧樂知仁 奇石怪巖亦映神 幾伴學仙爭浴海  
此間恐有浣纓人

觀潮樓

山瀨立堂

一灣橫白露 潮氣靜還清 唱烟波裡 笛聲月下生

清風館

同

紛々世路見窮通 不患無知意自融 山水權歸詞賦客  
市塵機屬冕旒躬 遠帆近舸稍窓外 松影砂光坐臥中  
一々觀來波又浪 欄頭飽被襲清風

### ○宮 島

海水浴場ノ西方ニアリテ老松參差トシテ叢生スル一孤島ナリ急礮ヲ  
登レバ島上一祠アリ之ヲ荒砂神社ト稱ス祭神ハ大物主命ナリ傳ヘ曰

フ昔者一漁翁アリ釣シテ棘鬚魚ヲ獲其腹中ニ一神像ヲ得タリ其祭ル所  
即是ナリト社殿ハ左甚五郎ノ高弟小倉某ノ建築ニ係ル試ニ巖上ノ樹根  
ニ踞シテ四方ヲ眺メンカ洋々一碧水天ニ連リ激浪脚下ニ咽ビ潮氣人身  
ニ逼リ金峯山ノ嵐氣東方ニ滴リ扇山ハ遙カ南方ニ群峯ヲ抽キ西方桐山  
ノ峻峰海岸ニ聳エ皆爭テ指願ノ間ニ落チ翠島點々水面ニ起臥スル等眞  
ニ是一頓ノ大活畫ナリ誰カ復之ヲ塵外ノ妙境ト謂フヲ否マンヤ殊ニ暗  
夜水天際涯ヲ失ヒテ幾千ノ漁火星ト連ル時涼風徐ロニ來ツテ塵腸ヲ吹  
キ洗フノ快實ニ筆紙ノ能ク盡ス所ニアラザルナリ

荒砂神社ハ式内ノ神社ニシテ文德實錄ニ仁壽元年冬十日因幡國大神  
社ニ授從五位下云々トアル是ナリ往昔ハ鈴見山ニ鎮座シ大神社荒砂  
大明神ト號セシガ大同元年洪水ノタメ社地本殿共ニ流失セシニヨリ  
創立ノ年月ヲ詳ニセズ大同二年今ノ宮居ニ遷座スト云フ



小栗濱 田後坂の眺望

間ある人も来て見む濱庇

久しく波にあらすなの宮

逸處米質

### ○小栗濱

宮島ヨリ西方ニ進メバ稍狭キ砂濱アリ小栗濱ト稱ス往昔ハ大物久里濱亦大久里濱ト云ヘリ大物主命出現ノ靈域ニ近キヲ以テナリ背後ニハ翁鬱タル老松枝ヲ交ヘ前面ハ蒼々タル日本海水其汀ヲ洗フ漣ハ常ニ青白ノ玉ヲ轉ジ左右ニハ怪巖奇石群起シテ千能萬狀人ヲシテ眞ニ仙境ニ遊ブノ想アラシム當地澤田氏ノ別莊松濤庵ハ此濱ニアリテ全景ヲ集ム此地別ニ一區域ヲナセルヲ以テ婦人ノ水泳ニ來ルモノ多シ

### ○田後坂の眺望

小栗濱ヨリ歩ヲ運ンカ田後ニ向フ道路二條アリ一ハ急坂ヲ攀ヅル一條ノ山路一ハ平坦ナル新道ナリ今新道ニ向ツテ進マンカ紆餘屈折ノ間展望頗ル廣濶ニシテ遠クハ向磯鼻近クハ老松幡踞セル松島海鳥翼ヲ乾ス鶺鴒真黒ナル黒鳥ヲ眺メ脚下ニハ狂濤ノ奇岩ニ觸レテ玉ト散ルアリ白帆ノ來往漁舟ノ集散一トシテ詩趣ナラザルナク畫趣ナラザルナシ眞ニ是レ天發ノ勝區稀有ノ樂園ト謂ツベシ

黒島や若和布刈にとゆく蟹も

おのが肌の色競べせむ

逸處米質

### ○田後港頭の夜景

田後港ハ浦富港ハ浦富ノ西北ニアリ前面ニハ向島松島等ノ諸島嶼羅列シテ天然ノ防波堤ヲナシ港内水深ク波靜カナルヲ以テ冬時風浪荒キ

田後港頭の夜景

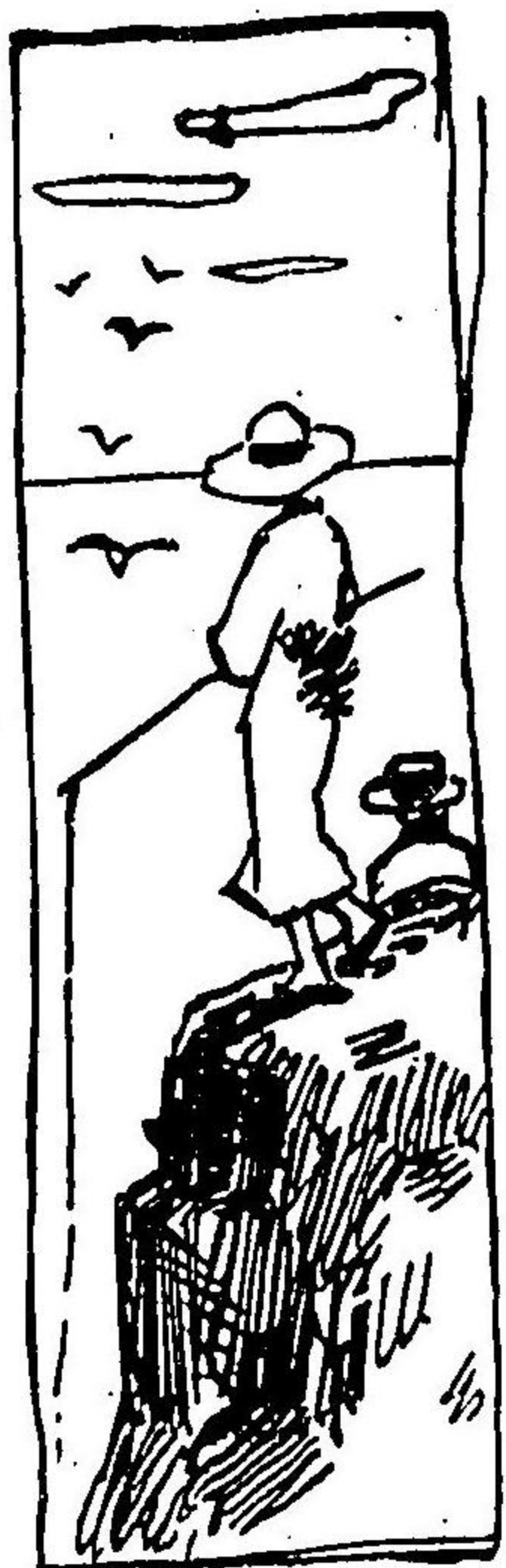


時ト雖船舶ノ碇繫避難ニ便ナリ奇モ夏夜月明ニ乗ジ扁舟ヲ島邊ニ浮ベ  
ンカ松韻濤聲相和シテ天樂ヲ奏スルガ如ク玉兔波上ニ戯レ金線依稀ト  
シテ搖リ人間ノ炎熱復何處ニカ存セン更ニ灣外ニ出デ、釣ヲ試ミンカ  
船頭ノ松明ハ海ヲ燒キ綸ニ上ルノ鳥賊ハ人ヲシテ垂涎三尺タラシメズ  
ンバ巴マズ此時ニ當リ眸ヲ遠海ニ致セバ漁火明滅集合離散ノ狀當ニ文  
士ヲシテ筆ヲ投ゼシムルモノアルベシ

田後港朝望

檜柴水竹

旭日瞳々懸一天  
茫茫浪閃海如燃  
日和山外放眸望  
帆點水天彷彿邊



年浪の千々に重ねて寄すれども

縁の色は若まつのしま

逸處米質

○菜種島

亦是古來有名ノ一勝境ニシテ浦富ヨリ海上十七町ノ西方ニアリ陸路  
田後ヨリ白原坂ヲ越エテ至ルヲ得斷崖絶壁ヨリ成ル一孤島上疎松嗟峨  
タルヲ見ル自然ニ叢生セル菜花ハ春風盛開ノ季全島ヲ飾リテ爛漫タル  
黄金島タラシム二百數十年前ノ著述稻葉民談記ニ此島山ノ頂ニ何時ノ  
世ヨリニヤアリケン菜種自ラ生ヒ繁リテ暮春艶陽ノ比ニハ菜花爛漫ト  
咲キ亂レ彼島山ニ滿チ滿チスレバ海邊ノ遙望一片ノ黄雲海潮ニ浮ビ煙  
霞千里ノ風景誠ニ妙ナル佳境ナリトアルヲ見レバ其菜種發生ノ起原極  
メテ故キヲ知ルベシ南方ニハ白原(城原トモ書ス)ノ小妙濱アリ附近ニハ  
奇岩水ニ臨ミ老松岩ニ倚ル詩人ノ所謂綠樹影沈ンデ魚樹ニ登ルテフ風



致之ヲ眼前ニ見ルヲ得ベシ知ラズ眞美ノ妙境何人カヨク之ヲ模出スベ  
キ

題茶花巖

伊良子大洲

海上羽人巖是家 黄金鍊羅駕龍車 巖頭金屑無人拾  
化作千春黄金花

うちかへす波に問ばや誰が作る

春の田後の菜種しま山

逸處米質

魂を消し肝をつぶして命にも

かゝるみちとはしらはらの坂

同

○鴨ヶ磯

菜花島ノ西方ニアリ東西ノ兩側ハ斷崖峭立シ前面ニハ島嶼恭布シ怪

松點綴シテ千古蒼潤ノ妙ヲ極ム狭キ砂濱ニハ花崗岩ノ碎片ヨリ成レル  
純白ナル細砂ト綠滴ル小松ト相對シテ配置ノ妙趣謂ハシ方ナシ乃チ舟  
ヲ賃シテ此浦ニ掉サンカー岩去リテ一巖來リ翠松青波ニ蘸映スルノ光  
景一々名狀スベカラズ

田後浦

山瀬立堂

可以依船還可陸 風光一々入詩情

閑雲出岫山客靜 奔浪打巖潮勢轟

岸々奇松龍鱗舞 灣々怪石虎獅驚

夕陽水漲朝紅處 帆影斜々前後行



○觀音島

鴨ヶ磯ノ西方島嶼多ク奇岩怪石星點恭布シ大ナルモノ小ナルモノ俛

觀音島



セルモノ巨龍ノ首ヲ擡ゲテ浮ブガ如ク長鯨ノ擬ヲ振ツテ吼ユルガ如ク  
千態萬様擧ゲテ數フベカラズ而シテ海岸ノ連山ハ壁立千仞直ニ海ヲ壓  
シ無數ノ海鳥ハ此間ヲ縫ヒ來テ復去ル島嶼中観音島ト稱スル一小島ア  
リ古記ニ平城ノ御宇大同元年三月漁翁網ヲ携ヘ小舟ヲ漕ギ洋中ニ赴キ  
シニ俄ニ波濤オコリ一船震ヒオノノキ神心安カラズ須刻シテ風波靜ス  
リ遙ニ海上ヲ見レバ岩上ニ佛ノ本尊顯ハレタリ船ヲ漕ギ寄セ合掌禮拜  
シ奉ルニ閻浮檀金ノ尊像ナリ舟ニ遷シ奉リ持チ還リテ禮拜ス岩本村網  
代寺観照院ニ祭ル本尊是ナリトアルハ此小島ノ事ニシテ今モ尙櫓櫂觸  
レバ佛罰ヲ蒙リ腹痛ヲ生ズトテ漁人畏レテ舟ヲ近ケズ

名におちて海士もゆるすか観音の

千の御手にもあまるうろくづ

逸處米質

是ヨリ稍西方ニ進メバ懸崖海ニ逼ル所一ノ岩窟アリ洞口狹隘ニシテ

纒ニ舟ヲ容ルベシ然レドモ漸ク入りテ漸ク濶ク其高數丈ニシテ岩燕飛  
翔シ洞内ノ石狀波浪ノ浸蝕ニヨリテ神劔鬼削實ニ自然ノ奇工ヲ極ム試  
ニ舩ヲ打テバ薄暗キ窟内鳴動シテ一種異様ノ反響ヲ生ジ藍里ノ深潭サ  
ナガラ奈落ノ底モカクヤト疑ハル更ニ深ク入レバ凄風颯然トシテ襲ヒ  
來リ皮膚粟立夏天猶寒キヲ覺ユ

### ○千貫松島

観音島ノ西南網代村ノ北方ニアル孤島ナリ巨巖海上ニ峙立シテ一老  
松其頂上ニ躡リ枝幹頗ル奇ナリ其鹹風ニ晒サレタル幾世ゾ其晚翠ヲ持  
スル何等ノ苦節ゾ而シテ此島ハ海濤ノタメ浸蝕サレテ灣門ヲ作り孤舟  
ニ掉シテ島脚ヲ通ルヲ得傳ヘ道ヲ舊藩主池田侯(鶴殿氏ノ家史ニヨレバ  
伯耆守綱清數此浦ヲ遊覽シ歎賞措カズトアリ)此處ニ遊ビ島上ノ松樹ヲ

千貫松島



見テ愛賞措カズ曰ク能ク之ヲ移シテ我ガ庭園ニ致スモノアラバ與フルニ祿千貫ヲ以テセント因テ此稱アリト此島ノ東方ニハ北海萬古ノ波濤ニ洗ハレテ屏風ヲ列スルガ如キ兒落ノ斷崖南方ニハ虚空藏山ノ絶壁アリ壯觀筆舌ノ形容スル所ニアラズ

千貫松

山瀬立堂

傳云舊藩主池田侯曾投金千貫欲致其庭而不能故爲名

海中巖角秀奇松 幾閱風霜若臥龍 何應諸侯千貫聘

曾享秦帝大夫封

仙巖浦舟中之作 井上甫水

怒濤千古洗山根 石骨成屏又作門 林立奇巖何以比

恰如萬鷲截風奔

我見てもそれが價は有磯浪の

音にきこえし千貫の松

逸處未質

### ○桐山城址

海水ニ浴シツ、背後ヲ顧レバ一峯兀トシテ青螺ヲ空際ニ横フ是ゾ標高二〇三ノ桐山ナリ有リシ昔ノ跡訪ハンニ由ナキモ殘ソノ孤松二三株當時ノ歴史ヲ語リ顔ナルゾ床シキ新緑雨露ル、時一度登臨シテ峯頭ニ立タバ浦富ノ市街ハ脚下ニ見エ四顧ノ青黛一眸ノ中ニ集リ伯耆ノ大山ハ雲烟縹渺ノ内ニ珍瓏タル孱顔ヲ表ハシ蒼海ニハ白帆飛ビ漁舟浮ビ嶼散點眼界ノ廣淵眺望ノ偉大多ク其比ヲ見ズ桐山一ニ木山紀伊ゲ山或ハ金山トモ云フ太閤眞顯記ニ磯部ノ城トアルハ是ナリ草創ノ時代ハ詳カナラザルモ古キ國繪圖ニハ鹽谷判官高貞ノ創立ナリトモ見ユ永祿天龜ノ比廢地トナリシガ當時海賊トナリ因幡但馬丹後ノ間ヲ徘徊セシ出



雲尼子ノ臣山中鹿之助ハ岩本ノ海岸ヨリ上陸シ此城ニヨリシガ程ナク  
法美飯山ノ城ニ移レリ天正中秀吉入攻ノ時ニハ垣屋播磨守ヲシテ之ニ  
據ラシメ但馬口ノ固トセリ天正八年山名豊國ノ款ヲ秀吉ニ通ズルヤ毛  
利氏牛尾大藏左衛門春重ヲシテ桐山ヲ攻メシム城堅クシテ陷チズ春重  
敗死ス其墳墓今猶細川村ニアリ翌九年秀吉國中ヲ平定スルヤ播磨守ヲ  
シテ當城ヲ治セシメ以テ巨濃郡一萬石ヲ領セシム其子隱岐守關ヶ原ノ  
役ニ石田三成ニ黨シ敗レテ高野山ニ自殺ス其鬢髮ハ葬テ宇治村長安寺  
ニアリ其後池田光仲侯ノ鳥取ニ封ゼラル、ヤ鵜殿民部大輔ヲシテ當城  
ニオラシメ岩井郡ヲ治セシム當時武ヲ練リシ陣屋ノ地ニハ現今浦富水  
産學校浦富尋常小學校アリテ人材ヲ陶冶スル所トナレリ

○鵜殿氏之墓

鵜殿氏ノ墓ハ宇奥市桐山ノ麓ニアリ鵜殿民部大輔が岩井郡ヲ領スル  
ヤ浦富ハ其治所タリシヲ以テ累代ノ墳墓此地ニアリ往時ハ老松墓城ヲ  
蔽ヒ扉垣整ヒシガ今ハ殘ソノ松二三株英魂ヲ吊フノミ文ヲ能クシ畫ニ  
巧ナリシ長春氏ノ墓モ此處ニアリ

因ニ鵜殿氏ハ大織冠鎌足十一世ノ孫左近衛中將正四位下陸奥守藤原  
實方五代ノ孫熊野ノ別當湛増ノ子某參河國西郡鵜殿村ニ住ヌ十餘代  
ヲ經テ鵜殿長善ニ至リ長將、長祐、長忠、長次、長之、長定ヲ經テ長春ニ及ブ  
累代池田侯ノ家老職タリ

附松田道之小傳

祖先ハ北條氏政ノ臣某ニシテ備前ニ來リ藩老鵜殿氏ニ客トナリ其子  
鵜殿氏ニ從ヒ因幡ニ徙リ世々浦富邑ニ居ル市太夫ニ至リ鵜殿家ノ宰  
トナリ始テ鳥取ニ徙ル子ナキヲ以テ久保市郎兵衛ノ子俊藏ヲ養テ子



吉祥院境内

トナス此松田道之ナリ初ハ之進ト稱シ次デ正人ト云ヒ後道之ト改ム  
藩學ニ入り學ヲ修メ年十七ニシテ豊後ノ廣瀬淡窓ノ門ニ入り四年ニ  
シテ歸ル明治維新前藩ノ命ニヨリ諸藩ノ間ニ周旋シ敬重セラル明治  
元年四月徴士トナリ内國務務局權判事ニ任ゼラレ滋賀縣知事トナリ  
令名アリ累進シテ東京府知事トナリ才名天下ニ鳴ル明治十四年病ニ  
罹リ同十五年七月六日卒ス享年四十四朝廷其勳功ヲ賞シ正四位ニ叙  
シ特旨ヲ以テ金五千圓ヲ遺族ニ賜フ

### ○吉祥院境内 一名浦富公園

吉祥院ハ殿町ノ南方石山ノ麓ニアリ天台宗ノ巨刹ニシテ境内廣ク老  
樹鬱葱トシテ閑靜ノ地ナリ伽藍高ク樹間ニ聳エ鐘樓又古雅ナリ春風駘  
蕩ノ節節ヲ此處ニ曳カバ櫻花爛漫半日賞遊ノ値アリ夏時夕陽海ニ没シ

蟬聲息ム時亦杖ヲ携ヘテ涼ヲ取ルニ適ス近時有志相計リ地ヲ拓キ園ヲ  
設ケ花樹ヲ増植シテ景致ヲ佐ケントス  
當院ノ本尊ハ藥師如來及藏王權現ナリ藏王權現ハ初メ牧谷村權現山  
ニアリシガ明治十年之ヲ廢シ同十二年今ノ地ニ再建ス會日ハ春秋二回  
ニシテ遠近ヨリ來賽スルモノ多ク甚ダ賑カナリ

### ○熊野神社

熊野神社ハ下町シモノ南方ニアリ境内ハ老松古椎森々トシテ嵐翠滴ルガ  
如ク小鳥ハ林間ニ歌ヒ幽邃閑雅ノ境ナリ一度足ヲ神苑ニ入ルレバ人ヲ  
シテ肅然自ラ襟ヲ正サシム

本社創立ノ年月ハ詳ナラザルモ承和以前ニ屬ス初メ國常立尊ヲ祭リ  
社號ヲ若一王子ト呼ビタリシガ後紀伊國熊野ヨリ伊弉諾尊伊弉册尊等

熊野神社



ノ四神ヲ勸請ス文化十年五月火災ニ罹リ社殿古記皆焼失ス同年該地ニ社殿ヲ再建シ明治元年熊野神社ト改稱ス武甕槌尊ハ舊藩主池田慶徳侯ノ尊信厚カリシヲ以テ老臣鶴殿大隅文久三年勸請合祭ス祭日ハ七月廿一日ニシテ神輿ノ渡御アリ儀式ノ壯嚴行列ノ美々シキコト近村稀ナル盛典ナレバ來觀スルモノ多シ

### ○道竹城址

浦富ノ南方若美停車場ノ正面ニ兀立セル山上ニアリ古來浦富ノ城又ハ新井城トモ稱ス天文ノ末三上兵庫頭ノ草創ナリ兵庫頭ハ但馬ノ屋形山名祐豐ノ弟ニシテ幼時釋門ニ入り東陽藏主ト號シ出石宗鏡寺ノ住職タリ時ニ岩常二上山ニ城主ナカリシカバ村民相議シ但馬山名氏へ城主ヲ乞フ東陽僧衆議ニヨリ還俗シテ三上兵庫頭ト改メ二上城ニ入りテ鎮

護ノ任ニ就ケリサレド此山高峻ニシテ諸事手支アリケレバ道竹ニ城キ二上山ニハ番兵ヲオキテ守トセリ永祿ノ比山名氏ノ臣武田又五郎武信ガ叛謀ニ與シ共ニ布勢城主山名豐次ヲ圍ラントス長臣房井土佐守諫ムレドモ聞カズ依テ之ヲ布勢ニ報ズ豐次即チ房井ト謀リ兵三百ヲ率キ加露ヲ出帆シテ岩本川ニ入り自ラ久松ヨリ進ンデ城ヲ圍ミ房井ヲシテ道竹城乾ノ方ヨリ攻メ立テシム兵庫頭大手敵兵ノ小勢ナルヲ見テ自ラ川畔ニ至リ防ギ戰ヒシガ敵勢強クシテ進ム能ハズ退却ノ際馬ヲ深田ニ乗入レ進退自由ナラズ遂ニ敵ノ攻殺スル所トナル兵庫頭子息二人アリ兄ヲ龜壽ト云ヒ甫メテ七歳遁レテ氣多郡鷺岸古佛谷ノ禪林(讓傳寺ナリ)ニ走リ弟竹鶴六歳但馬ニ入ル内室ハ脱走ノ途次兵庫頭ノ戰死ヲ聞キ細川村ニテ自害ス兵庫頭ノ墓ハ城山ノ南麓御墓ト稱スル所ニアリ土人小祠ヲ建テ八幡ト稱シテ祀ル



○垣屋宗管墓

垣屋播磨守姓ハ平名ハ光成ト云ヒ入道シテ宗管ト號ス文祿元年病死  
ス墓ハ初桐山ノ麓宗管屋敷ニアリシガ藩主光政侯ノ長臣池田加賀守當  
所ヲ領知セシ時此所ニ亭館ヲ建ツルタメ定善寺境内ニ移シ垣屋八幡ト

號セリ英魂一  
度去ツテ凄風  
寒雨幾百年徐  
ニ懷古ノ情ニ  
禁ヘズ  
定善寺ハ寛  
文及寛延年



間再度ノ火災ニ罹リ記録焚滅由緒詳カナラザルモ元和年間ノ創建ナ  
リト稱ス寶曆元年ニ及テ堂宇ヲ再興シ鳥取玄忠寺ニ屬セシガ安政二  
年京都智恩院ノ直末トナル本尊ハ阿彌陀如來ナリ

○通幻禪師誕生墓

横町<sup>ヨコチヤウ</sup>ノ西方ニアリ此所ハ香林寺ノ跡ニシテ昔時ハ墓表タル大榎アリ  
シガ今ハ枯レ果テ、一碑碣ヲ殘スノミ傳フ元享ノ頃此邊ニ岩淵長者ナ  
ル者アリシガ其女臨月ニ當リ病死ス依テ之ヲ自得庵ノ側ニ葬ル翌日旅  
僧アリ此地ヲ過リ新シキ卒都婆ヲ見テ回向シケルニ墓中彷彿トシテ嬰  
兒ノ啼聲ヲ聞キ奇異ノ念ニ堪ヘズ急ニ民家ニ入り其山ヲ叩キ遂ニ長者  
ニ謀リ墳ヲ發ヒテ之ヲ見ル中ニ一男子ヲ得タリ長者愕キ且ツ喜ビ之ヲ  
哺育ス僧曰ク是ノ如キ奇特是全ク佛緣ニヨレリ希クハ斯兒ヲ獲テ我が



弟子トシ以テ佛祖ノ法ヲ繼ガシメント僧依テ携ヘ歸リ養育ス是即通幻  
禪師ナリ元祿十一年此地ニ碑碣ヲ建ツ今安産ノ佛ト稱シ遠近ヨリ香華  
ヲ手向クルモノ多シ

土葬神塔銘

古之作史上會稽探禹穴紳石室金匱者叙事嚴吐言典矣自後作者雅鄭相  
沿玉石迭鋪唯其聞見所泊委巷所傳盡收以爲一代全史釋門之梁唐及宋  
僧傳亦且如此以猶有摺撫不盡搜羅不及者後世有逸史有外傳吾宗自古  
乏史筆頃歲稍略反覆讐言流儀爲一二史編宜乎訛略惟多鹵莽不抄矣於中  
義山和尚之高足通幻寂靈禪師名諱之異法字之奇非不可漫視過者耶茲  
因州前景福主彌峰禪師爲幻祖質其生緣別作傳云世謂祖洛之產寔是也  
父因州石井郡細川太郎磨呂母本郡浦住岩淵長者女太郎自先寓洛歲歸  
鄉梓郎女一盼相慕未傳柯語受誦漆浦郎纒回洛女自是精神恍惚遂死于

病父母哀慟無術寔于宅外一丘女魂飄逸之京師宛然就即伉儷和協居無  
何生一子女對郎言背親奔君大義焉拚相携還鄉郎先入門云不告而娶敢  
請恕非君女抱幼在閭父母聽焉且驚且喜趨出無所見特視孩兒踞女墳上  
父母疑怪弗止發墓見焉女顏如生父母惻々怒焉祇舉兒鞠養也耳兒動啼  
墓上如人將去寄厝者又婦人市餅出入墓間邑人見之數次自時其墓名土  
葬神蓋鄉語言都氣乃左伊也長者之裔賣餅家之孫如今尙在其兒誰廼通  
幻祖也稱號之殊絕於是灼矣世有褊淺斗筲以謂此等奇怪借令有在盡屬  
不經姑舍而可也吁爾言則如來一代時教置可乎佛祖之玄運異跡不記而  
善乎加旃于寶搜袖願況廣異紅梅記離魂記豈盡無也哉死婦靈產誌于迷  
明錄化女市餅載於類林子奇事偶合支桑一轍天公老來求鶴棲逸窩自先  
在念砥是墓址也將此謀於使君管家至貞享甲子春管家及百有司無一敢  
枝梧落長老農與議惟諧一齋僉花押即日剔榛除翳擬造梵宇取龍泰舊號



以揭扁矣今則改香林乃功德主大母之牌額也是知天公勤於草昧並幻祖之幻不可常理而譚焉按師諱理天彌峰其號但州獺父中瀨人也年十一依德外和尚披緇三十二瑞世越五載主羗源四十一應命因州景福六十三歲于仙臺輪王行脚開法一出一入其詳具于行狀余之所以拳々於師者只在其探奇擇勝裕養祖化蹟於百世下之峻隘自餘不復贅矣檀越荒尾今志州秀就公捨貲督工鼎新棟宇以資祖宗英靈現景福單公同志勦力建塔圖不朽其德大哉至矣以銘屬余遂銘曰

因幡之國 石井之陽 浦住鱗比 細川斯傍 倘杰攸毓  
冥化無方 鏡人肉眼 難觀難量 彌峯師宿 訪古徜徉  
靈瑩得所 締茅徙床 拮据彈力 爲記流芳 變隱鬼戶  
起潮梵場 人言顯異 於法惟常 寥々祖蹟 有待張皇  
信檀植福 重興謀臧 于奇于妙 法門久長

元祿十一歲舍戊寅仲春佛涅槃日佛德

與嗣聖祖沙門信梅峰祇識于楞伽林

景福第十世吉州單叟建焉

### ○金峰神社

金峯神社牧谷村權現山ニアリ浦富ヨリ三十餘町ヲ距ツ此山ハ北海ニ臨メル峻峯ニシテ一望以テ鯤波鵬雲ノ變化ヲ俛瞰シ壯瀾雄偉ノ大觀ヲ擅ニスベシ祭神ハ天之水分神國之水分神勾大兄命ニシテ創立ノ年月ハ詳カナラザルモ大和國金峰神社ヲ勸請セシモノニ係リ中世佛法ノ盛時ニ際シテ之ヲ藏王權現ト稱セリ文治四年源賴朝社領ヲ寄進シ後文和ノ比山名氏清戰捷歸國ノ時治世祈願ノタメ社領ヲ寄進シ三十二院ヲオキシト云フ其舊跡猶存セリ池田侯ノ當國ニ封ゼラル、ヤ崇敬淺カラズ明



治十年舊稱ニ復シ金峰神社ト云フ春秋二季ノ祭日ニハ遠近ヨリ來賽ス  
ルモノ多シ境内樹林翁鬱トシテ古松老杉高ク社殿ヲ蔽ヒテ崇高ノ神境  
タリ且ツ殿宇ノ宏壯莊嚴ト寰區ノ寂靜幽邃トハ大ニ敬虔ノ念ヲ起サシ  
ム夏時ノ避暑秋日ノ觀楓共ニ騷客ノ吟杖ヲ曳クニ足ル

登金峰絕頂望海地酒示二三子 省齋堀徵字文獻

茲山何峻峙 人間徒仰止 神鷲來海上 扶我飛天際 置我萬仞巔  
我神王甚矣 長鯨躍我前 大鵬搏我後 我東指蓬萊 我西辨弱水  
展足濯清波 誤蹈巨鼉首 五岳忽傾倒 群仙欲何倚 回頭呼徑福  
雲波正渺瀰 恩矣秦皇帝 謾道學不死 巡幸未廻車 其人骨已朽  
感之欲歎息 把酒酬吾子 沉醉且休辭 頽陽不駐唇 自古天地間  
千載誰長壽

詣牧谷 安權現社

敦齋堀熙明 字子光 省齋孫

幾擲短筇駭鹿眠 朗吟飛上碧山巔 帆輪遠影欺鷗翼  
松露蟠根訝石奏 殿社莊嚴深結構 神靈加護仰安全  
黃昏遊倦時回首 滿澗泉聲月在天

○羽尾浦

浦富ノ東方二十五町ノ地ニアリ西ニハ向磯鼻東ニハ臺ケ鼻突出シテ  
陸上灣中別ニ一支灣ヲナス灣内水清ク波靜ニ萬燈岩蠟燭岩天神鼻等ノ  
奇石怪岩アリ殊ニ萬燈岩ハ白砂ノ上ニ峭立シ岩上孤松蟠リ奇景ヲ極ム  
斷崖峭立怪巖骨ヲ表ハシ波ハ岩ニ激シテ五色ノ玉ヲ出現スル天神鼻ノ  
小徑ヲタドリテ田城濱ニ至ランカ圓山ハ高ク海中ニ兀立シ千古ノ綠ハ  
清波ト相映シ景致宛然錦繡ノ如ク附近ノ秀麗皆一眸ノ内ニ集ル猶觀學  
寺及陸上村ニ通ズル沿道ノ眺望ハ自然ノ妙境ヲナシ遊覽スル人ノ心身

羽尾浦



ヲ清クスルニ足ル

玉祭る萬燈島の光には

海の魚等も浮み出づらむ

逸處米質

北溟觀濤歌

竹内峴南

陸上浦因州東端也經此而東抵但之諸寄灣途概沿海滄崑礁碁布石  
磯鶴峙頗爲奇觀而此日強風盪海狂瀾簸揚勢拍天聲震地豪壯不可  
言因踞岩脚染筆於墨斗而作此歌此成御衣袂淋漓悉爲潮氣所濡而  
不自覺也時丁未六月十四日也

北溟有魚其名鯤 鯤大不知里幾千 化而爲鵬其翼健  
海運九萬圖南天 此事聞於漆園語 少壯讀之興翩然  
漆園之語雖幻怪 北溟眺矚真壯快 梅天六月雨姑晴  
晴不是晴雲氣味 長風吹從棘鞞天 怒號而捲誰敢礙

風急雲奔咫尺迷 此身疑墮羅刹界 海門之浪忽簸揚  
蹴乾拍坤勢澎湃 百千巨礫一時轟 十萬軍聲直逼砦  
大礁小礁堅陣張 長岬扼海若城寨 石拒嵩抗頗頑強  
濤軍觸之幾奔潰 高者如山低者屋 去而復來來輒碎  
銀河迸天玉雪霏 鯨鯢掀舞無生態 鯨喙鼉并何足言  
龍蛇胆戰搖大魄 蜃闕傾覆蛟宮沈 此時胸中絕纖芥  
喉結唇閉不成聲 魂翻眼倒似聾聵 小知安能解大知  
蟪蛄不識春秋期 鯤魚有無未可料 鵬鳥變化或有之  
圖南之翼母乃是 半天雲影黑垂々 直擊扶搖羊角上  
雄風從羽捲漣漪 海上瀾翻區父退 乾坤簸盪現比奇  
南華真人不可起 如是壯觀當語誰 於戲如是壯觀當語誰  
海濞立盡日之夕 無何有鄉不見涯 大濤小濤看翻覆



飛沫如雨衣袷濕去爲淋漓

### ○岩井溫泉

岩美停車場ヲ距ルコト一里餘道路ハ平坦ニシテ人車及馬車ノ便アリ  
 溫泉ハ鹽類泉ニシテ少許ノ硫黃分ヲ混ズ溫度百餘度屢麻質斯慢性胃加  
 答兒其他諸病ニ著效アリ東及西方ハ諸峰屏立シ西北ハ田野千頃望ミ開  
 豁ナリ蒲生川ノ清流宿中ヲ貫流シ夏ハ岩井橋上ノ納涼錦襖子ノ鳴聲冬  
 ハ遠近ノ雪景色等清趣ヲ添へ靜養遊賢ノ好適地タリ木島屋明石屋等ノ  
 旅館ハ何レモ設備完全ニシテ四時浴客輻輳ス

此湯ノ起原ヲ尋ヌルニ何レノ時代ノ發見ニ係ルヤ詳ナラズト雖延喜  
 式神名帳ニ巨濃郡ニ御湯神社アルヲ見レバ古キ事考フベシ清和天皇ノ  
 御宇トカヤ閑院左大臣冬嗣ノ庶孫冬久山城國宇治ヨリ來リテ溫泉ヲ開

ケル由藥師堂緣起ニ見エザレド此里ニ傳フル所ニヨレバ冬久以前已ニ  
 湧出セリト冬久疫アリ百療施セドモ功ナク諸國ヲ遍歴シテ治ヲ求メシ  
 ガ此地ニ來リ湯池ニ浴シテ神驗全キヲ得タリ爰ニ於テ本國ニ歸ラス宇  
 治村ニ栖ミ子孫榮華ナリシカバ宇治ノ長者トハ稱シケルト

#### 岩井溫泉

小泉友賢

發沸溫泉岩井郷 井華清烈暖如湘 靄塵忽起董蒸氣

水脉當溫生熱湯 驪岫泉飛秦始祖 華清池浴李三郎

洗勝浹骨有神驗 眞登仙城壽無疆

#### 岩井溫泉雜詩

木十首

堀敦齋

已領溫泉勝 更添山與山 雲邊青欲滴 柳蔭白成潯 景以有詩寫

心因無事閑 登仙途咫尺 鶴背穩堪攀

#### 岩井竹枝詞

做浴湯歌  
木十首

同上



岩井温泉

阿三本輕薄 花柳隨處歡 朝來須早返 主人來辨餐

宿岩井温泉 正墻適處

冠童六七儘隨行 聊試盈々春服輕 已入溪村忘浴務

僅離城市即風情 晴川一帶花神老 綠樹滿山營意驚

今日君恩賜清暇 滄洲咫尺夢魂手

岩井温泉に因みある古歌ども

世々を経て島根の御湯は今も猶

さむるときななくわきかへるらし

むかしよりさむるともなきこの國の

島根の御湯や神を守れる

衣川長秋が岩井記行の歌に

よの人の病いえねと大汝少彦名のつくらせりけん

○網代港

浦富ノ西方一里餘ニアリ大谷灣ノ一支ニシテ東方ハ山ヲ負ヒ北方ハ  
虚空藏山ノ岬角及沖灘ノ三ツ島ヲ以テ圍ミ自然ノ港澳ヲ作ル今ヤ防波  
堤及防砂堤ヲ築キ船舶ノ碇繫避難ニ便シ汽船ノ定期航海アリ

附近ニハ兒落、虚空藏ノ斷崖絶壁觀音島千貫松島等ノ奇景ニ富ミ且海  
岸ニハ遠淺ノ砂濱アルヲ以テ盛夏避暑遊覽ニ適ス港頭ニヨリテ大谷ノ  
洲諸駟馳山ノ岬角サテハ海士島長尾鼻等ヲ眺メ又夕陽特ニ海底ニ沈マ  
ントシテ紅雲海面ヲ燒クノ大觀ニ至リテハ絶景云フベカリナシ加フル  
ニ夏夜月暗ク水天塲幾千ノ漁火星ト連ル時堤石ニ踞シテ涼風ニ浴シ  
ツ、論ヲ垂レ杯ヲ傾クルノ快ニ至リテハ筆舌ノ能クスル所ニアラザル  
ナリ

網代港



# 浦富名勝古跡案内 終

明治四十四年七月廿九日印刷  
明治四十四年七月卅一日發行

編纂者 浦富顯勝會

發行人 木山竹治

鳥取縣岩美郡浦富村一番地

印刷人 平井登

東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社分工場

東京市本所區番場町四番地

版權所有	複製不許
------	------

發行所 浦富顯勝會

鳥取縣岩美郡浦富村一番地



鳥取市元鑄物師町

會社資  
鳥取銀行

電話四八番

美術最新式寫真攝影  
鳥取縣下名勝寫真並ニ  
コロタイプ繪葉書發行販賣

山縣寫真館

鳥取市大工町頭

書籍  
理科器械  
運動器具  
教育標本  
文房器具  
樂器

鳥取市本町三丁目

山本尙文館

電話三番



82  
526

海水浴客

汽船乘客

岩美

浦富

分間清風館

網代商業株式會社

汽車汽船連絡

荷客取扱

諸貨物運送

水產物賣捌



山片  
樓潮觀

海水浴旅館

汽船乘客御旅館

汽船連絡御指定旅館

帝國鐵道院御指定旅館

富浦

浦富融通合資會社

電話  
號 ユウ又ハユ





御旅館

上但

鳥取市

川端通

三丁目

長電話

一〇二番

鳥取市東町

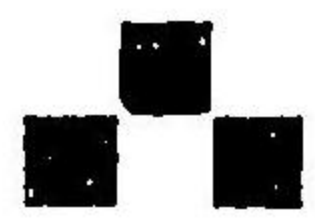
山添旅館

電話二二二番



陸運送倉庫業

隱岐汽船株式會社代理店  
阪鶴線經由連絡浦富取扱所  
城崎經由連絡浦富取扱所  
帝國海上運送保險株式會社代理店



浦富商業株式會社

電信略號(ニイシ又ハ三)

山陰線岩美驛前

陸送部

浦富海岸

廻漕部

御旅館

米屋善四郎

米

善

電話

鳥取

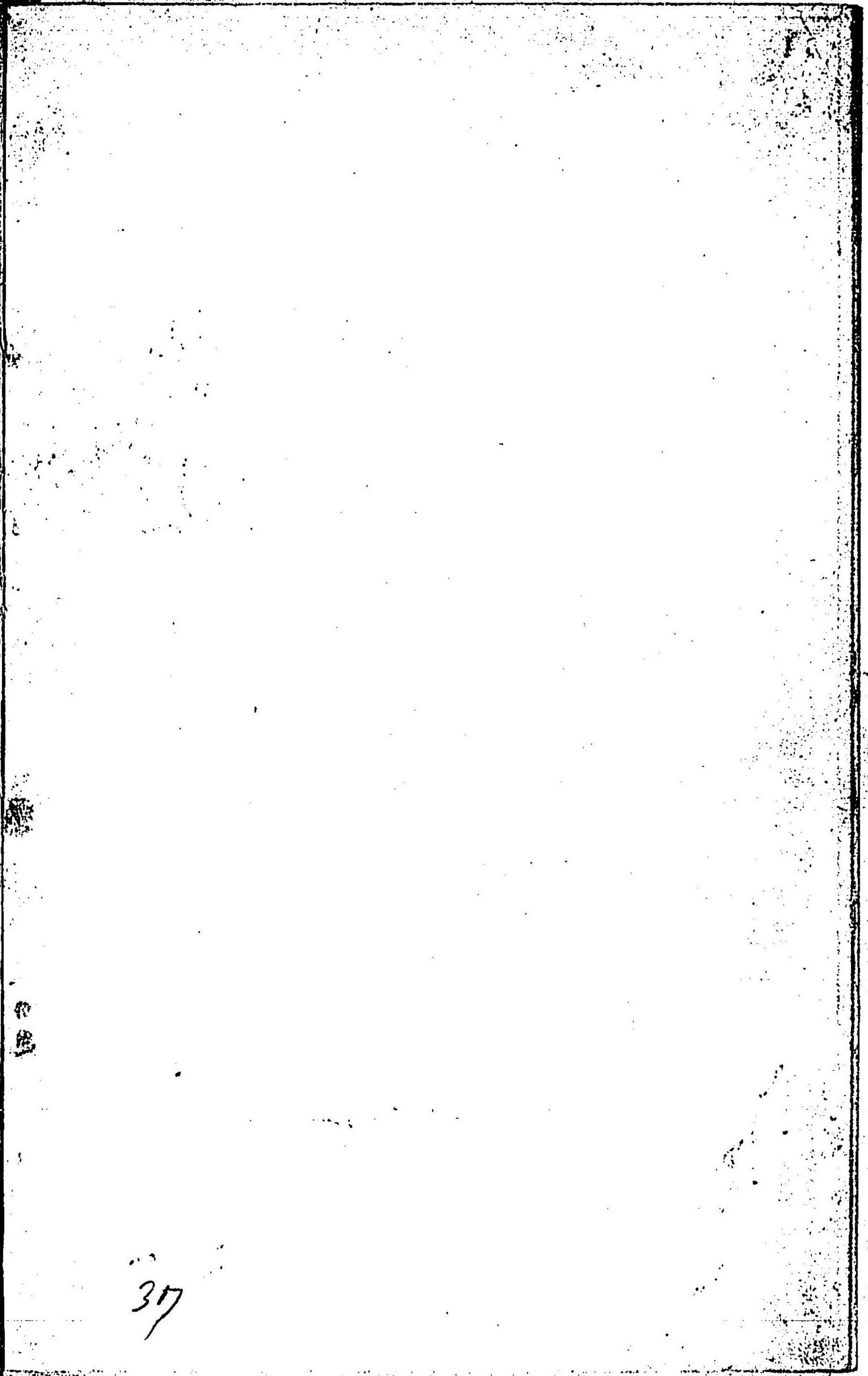
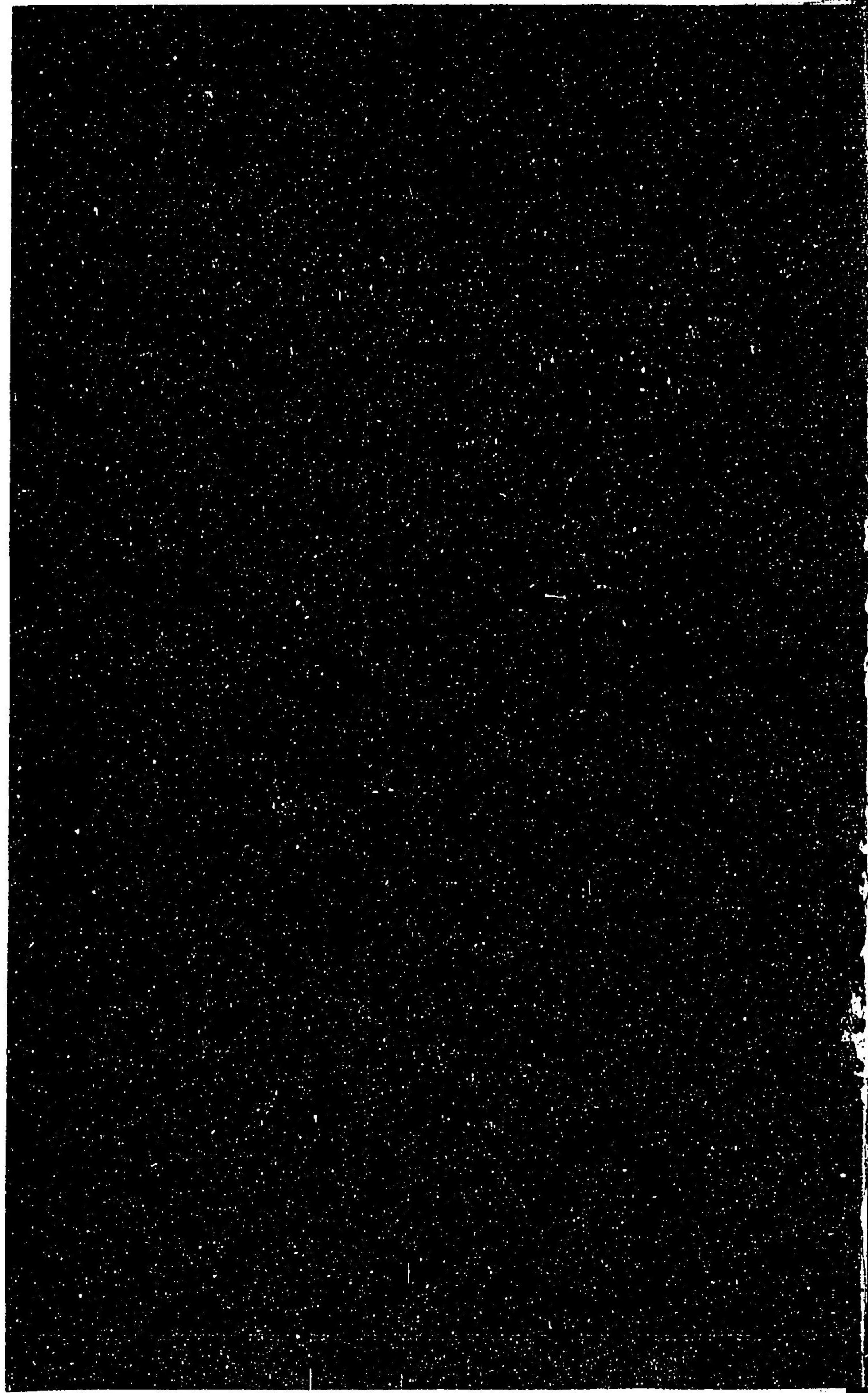
長

距離

離

二一五番





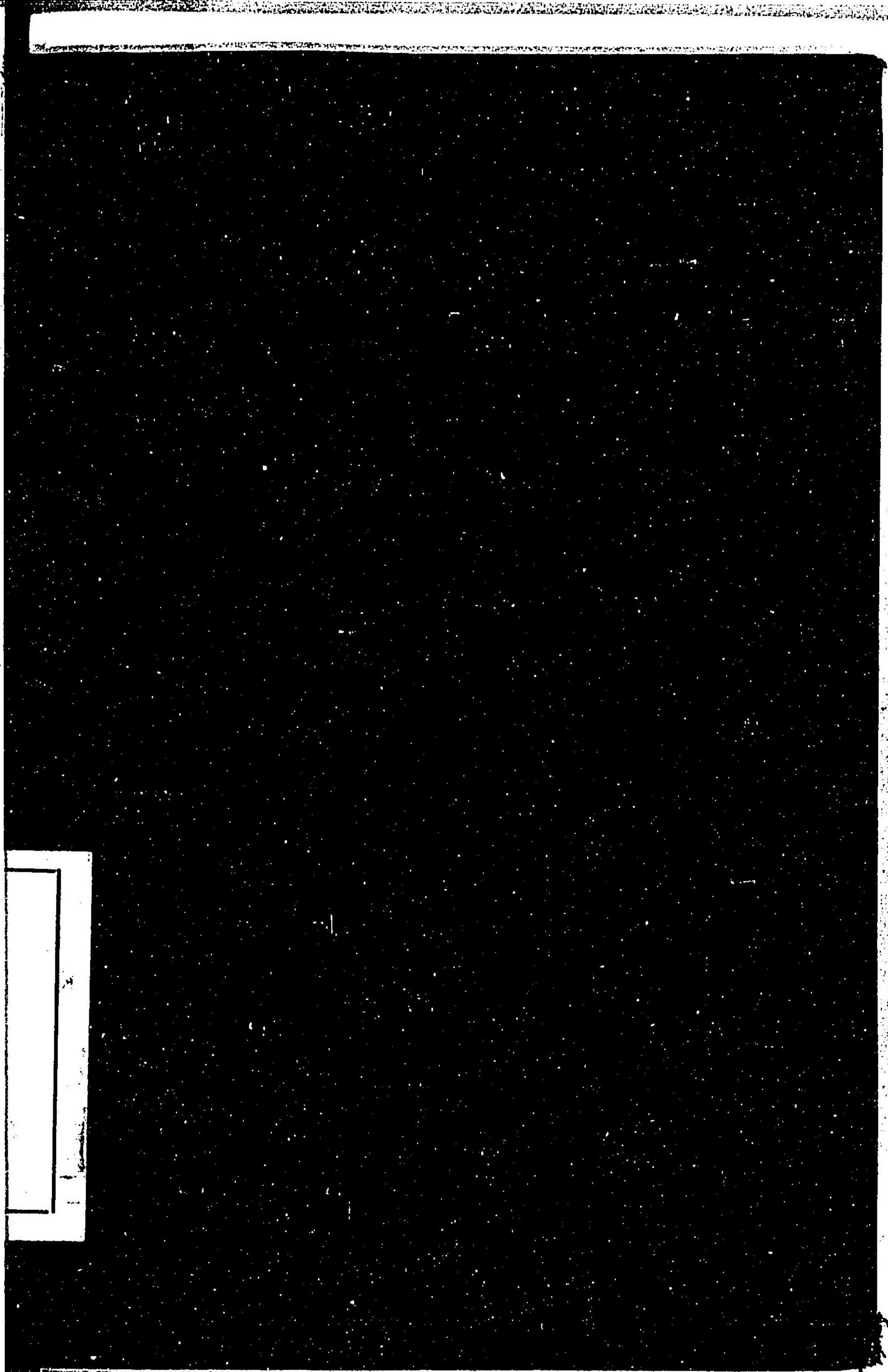
e 21

37



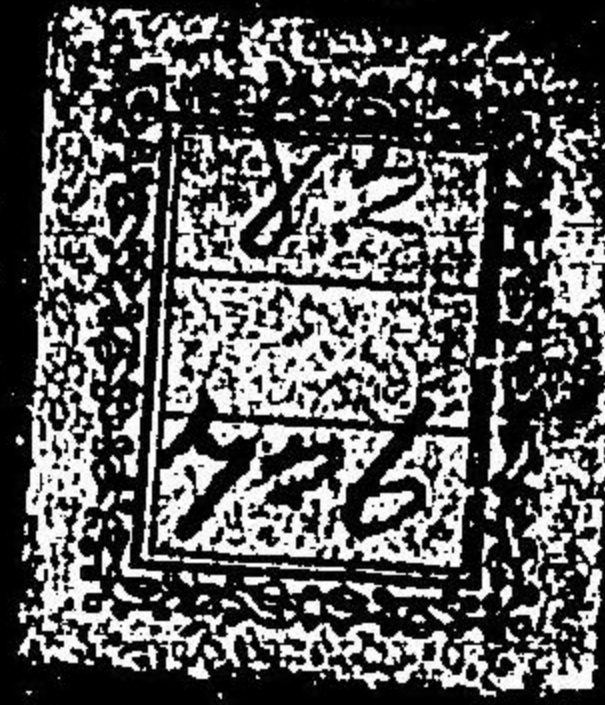
82
726





Small white rectangular label with illegible text.





025779-000-6

82-726

浦富名勝古跡案内

浦富顕勝会/編

M44

ADC-3316





